

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	弘前大学
設置者名	国立大学法人弘前大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計			
人文社会科学部	文化創生課程	夜・通信	182	12	40	234	13		
	社会経営課程	夜・通信			24	218	13		
教育学部	学校教育教員養成課程	夜・通信		118		147	447	13	
	養護教諭養成課程	夜・通信			12	312	13		
医学部	医学科	夜・通信				192	374	19	
	保健学科	夜・通信				394	576	13	
理工学部	数物科学科	夜・通信		16		6	204	13	
	物質創成化学科	夜・通信			18	216	13		
	地球環境防災学科	夜・通信			18	216	13		
	電子情報工学科	夜・通信			52	250	13		
	機械科学科	夜・通信			24	222	13		
	自然エネルギー学科	夜・通信			42	240	13		
農学生命科学部	生物学科	夜・通信		6		6	194	13	
	分子生命科学科	夜・通信			39	227	13		
	食料資源科学科	夜・通信	22		210	13			
	国際園芸農学科	夜・通信	8		196	13			
	地域環境工学科	夜・通信	26		214	13			
(備考)									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.hirosaki-u.ac.jp/support/syllabus.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

該当学部なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	弘前大学
設置者名	国立大学法人弘前大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.hirosaki-u.ac.jp/information/published/corporation/yakuin.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤 (総務担当)	前職：埼玉大学理事・事務局長	平成30.4.1 ～ 令和2.1.31	総務、財務、施設及び内部統制に関すること
常勤 (社会連携担当)	前職：青森県観光国際戦略局理事（青森県立美術館副館長事務取扱）	平成30.4.1 ～ 令和2.3.31	社会連携及び男女共同参画に関すること
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	弘前大学
設置者名	国立大学法人弘前大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業担当教員が、各学部・研究科等のAP, CP, DPに即して授業計画(シラバス)を立案する。その後、各学部・研究科等においてカリキュラムチェックを行い、必要があれば、シラバスの内容について、改善を求め、修正を行わせている。 シラバスの作成は、1月中旬から着手し、新年度の4月からホームページ上で公表している。	
授業計画書の公表方法	https://www.hirosaki-u.ac.jp/support/syllabus.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 成績評価方法、採点基準をシラバスに明記したうえで、各学部等が定めた成績評価基準に基づき、成績評価を行い、単位を授与している。なお、教育推進機構において、全学的な成績評価方法、採点基準の考え方を共有するため、「成績評価のガイドライン」を策定・周知している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学が定めたGPAに関する要項に基づき、GPAを算出し、各学期の成績通知表配付時に学生に通知している。

また、成績の分布状況については教育推進機構教育推進機構会議にて把握し、授業科目の改善に結びつけている。

弘前大学 GPA に関する要項

(平成 28 年 12 月 5 日学長裁定 第 87 号)

(目的)

第1 この要項は、国立大学法人弘前大学（以下「本学」という。）の学部におけるグレード・ポイント・アベレージ（履修科目の成績の平均値。以下「GPA」という。）に関し必要な事項を定め、教育課程における学習到達度を客観的に評価することにより、大学教育の質を保証するとともに、履修指導、学習支援等に資することを目的とする。

(評価等)

第2 学生が履修した授業科目の成績の評語及びグレード・ポイント（評価により与えられる数値。以下「GP」という。）は、次表のとおりとする。

評語	評点	合否種別	GP
秀	100点～90点	合格	4
優	89点～80点		3
良	79点～70点		2
可	69点～60点		1
不可	59点～0点	不合格	0

(GPAの算定)

第3 各学期のGPA（以下「学期GPA」という。）及び累積のGPA（以下「累積GPA」という。）は、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第一位未満の端数があるときは、小数点以下第二位の値を四捨五入するものとする。

$$\text{学期 GPA} = \frac{\text{当該学期の履修科目の GP} \times \text{当該科目の単位数}}{\text{当該学期の履修登録した科目の総単位数}}$$

$$\text{累積 GPA} = \frac{\text{全学期の履修科目の GP} \times \text{当該科目の単位数}}{\text{修得した科目の総単位数}}$$

(対象授業科目等)

第4 本学で開講するすべての授業科目をGPAの対象授業科目とする。

2 前項の規定にかかわらず、既修得単位の取扱いで、本学で開講する授業科目への単位認定結果が評語又は評点の付与を伴わない場合は、GPAの対象外とする。

(履修取りやめ等の取扱い)

第5 定められた期限までに履修の取りやめの手続きを行ったものは、GPAには算入しない。取りやめの手続きをせずに、履修を放棄した科目についてはGPを0とし、学期GPAに算入するが、累積GPAには算入しない。

(再履修等におけるGPAの取扱い)

第6 不合格科目を再履修し、合格の評価を得た場合及び再履修の結果再び不合格の評価であった場合の、それぞれの再履修前の不合格評価、並びに再履修の結果の不合格評価については、累積GPAには算入しない。ただし、学期GPAにはそれぞれ算入する。

(GPAの通知)

第7 GPAは、成績通知表配布時に学生へ通知する。

(GPAの活用)

第8 GPAは、学期GPAを学生指導等に、累積GPAを学生の推薦や就職活動等に活用するものとする。

(その他)

第9 この要項に定めるもののほか、GPAの取扱いに関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この要項は、平成 29 年 4 月 1 日から施行し、平成 29 年度前期の成績から適用する。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<http://www.hirosaki-u.ac.jp/policy/img/2012/07/GPA.pdf>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【人文社会科学部】

○学位授与方針

人文社会科学部では、カリキュラム・ポリシーに基づいて編成された教育課程にそって人文社会科学分野の諸領域における専門知識・技能等を習得するとともに、高い倫理観と強い社会的使命感をもって、習得した知識・技能等を地域社会の発展のために活用できる人に対して、学士（人文社会科学）の学位を授与します。具体的には、次の目標に達していることが学位取得の要件となります。

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い見識と高度な知識・技能等をもとに、人間の本質を深く理解しつつ、社会の動向を見通す力を身につけていること
- ・習得した専門知識・技能等を実践の場に活かすことによって、現代社会が直面するさまざまな課題を解決していく力を身につけていること
- ・歴史文化に対する深い認識と人間社会に対する広い視野をもって、生涯にわたって自分自身を成長させていくための探究力を身につけていること

○適切な実施に係る取組の概要

各授業科目について、具体的な到達目標をシラバスに記載し学生に公表したうえで、人文社会科学部において定めた成績評価基準に基づき成績評価を行い、人文社会科学部学務委員会及び人文社会科学部教授会の議を経て卒業を認定している。

【教育学部】

○学位授与方針

教育学部は、教育に関する専門力と実践力を有し、高い倫理性と絶えざる向上心を備えた「教育プロフェッショナル」として、自律的・協働的に教育に貢献し得る者に対して学士（教育学）の学位を授与します。具体的には次の力を有することが学位取得の要件となります。

- ・教育学の専門的な知識や技能を修得し、教育現象を深く洞察できる力
- ・教育者としての倫理観や向上心を持ち、教育実践を主体的に推進できる力
- ・地域社会で活躍する教育者として、日々変化する教育課題の解決に貢献し続ける力

○適切な実施に係る取組の概要

各授業科目について、具体的な到達目標をシラバスに記載し学生に公表したうえで、教育学部において定めた成績評価基準に基づき成績評価を行い、教育学部学務委員会及び教育学部教授会の議を経て卒業を認定している。

【医学部医学科】

○学位授与方針

医学部医学科では、カリキュラム・ポリシーに基づいて編成された教育課程にそって医学的専門知識と技能を習得するとともに、人間の尊厳を希求し、医学の発展の一翼を担うために、求められる社会的役割を的確に果たすことができる三つの素養を、身につけたものに対して学士（医学）の学位を授与します。具体的には、次の目標に達していることが学位授与の条件となります。

- ・豊かな人間性と高度な医学の専門知識を身につけ、人間的・科学的観点から社会の要請を見通す力を身につけていること
- ・広い視野と柔軟な思考力を基盤に、医療・医学の問題を解決していく実践的な力を身につけていること
- ・専門性を生かした国際基準の基礎的かつ、応用的な医学・医療を常に学修し、生涯にわたり自らを成長させ続ける力を身につけていること

○適切な実施に係る取組の概要

各授業科目について、具体的な到達目標をシラバスに記載し学生に公表したうえで、医学部医学科において定めた成績評価基準に基づき成績評価を行い、医学部医学科学務委員会及び医学部医学科教授会の議を経て卒業を認定している。

【医学部保健学科】

○学位授与方針

医学部保健学科では、カリキュラム・ポリシーに基づいて編成された教育課程にそって保健医療分野における専門知識・技能等を習得するとともに、豊かな人間性と倫理性を兼ね備え、国民の健康と福祉に貢献できる者に対して、看護学専攻は学士（看護学）の学位を、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻は学士（保健学）の学位を授与します。具体的には、次の目的に達していることが学位取得の要件となります。

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い知識と各保健医療専門職としての専門的な知識・技術をもとに、保健医療分野の動向を見通す力を身につけていること
- ・修得した専門的知識・技術を保健医療の場で活かすことにより、直面する課題を解決する力をもっていること
- ・医療専門職者として保健医療を正しく認識し社会貢献を意識し、生涯にわたり自分自身を成長させていくための探求力を身につけていること

○適切な実施に係る取組の概要

各授業科目について、具体的な到達目標をシラバスに記載し学生に公表したうえで、医学部保健学科において定めた成績評価基準に基づき成績評価を行い、医学部保健科学務委員会及び医学部保健学科会議の議を経て卒業を認定している。

【理工学部】

○学位授与方針

理工学部では、カリキュラム・ポリシーに基づいて編成された教育課程にそって理工学の諸分野における専門知識・技能等を習得し、高い倫理観をもって知的探求に取り組み、科学・技術、世界と地域の発展のために活用できる力を身につけた人に対して、学士（理工学）の学位を授与します。具体的には、次の目標に達していることが学位取得の要件です。

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い見識と高度な知識・技能等をもとに、自然科学の本質を深く理解し、理工学と社会の動向を見通す力を身につけていること
- ・習得した専門知識・技能等を実践の場に活かすことによって、現代社会が直面するさまざまな課題を解決していく力を身につけていること
- ・自然科学と理工学に対する深い認識と探究心をもって、生涯にわたって自らを成長させていくための力を身につけていること

○適切な実施に係る取組の概要

各授業科目について、具体的な到達目標をシラバスに記載し学生に公表したうえで、「理工学部成績評価基準」に基づき成績評価を行い、理工学部学科代表者会議及び理工学部教授会の議を経て卒業を認定している。

【農学生命科学部】

○学位授与方針

農学生命科学部は、国際化の中で刻一刻と変化する農業・食産業分野、生命科学分野における技術革新に対応し活躍できる能力、および高い生命倫理、職業倫理を併せ持つ専門技術者として以下の三つの力を身につけたものに対して学士（農学生命科学）の学位を授与します。

- ・農学および生命科学の各分野の専門性を身につけ、原理や理論、実践に基づいて自然や社会を見通す力
- ・学修した知識を具体的に活用し、専門技術者として地域社会や国際社会における問題を解決する力
- ・創造性と主体性をもって生涯にわたって自らを成長させ学び続ける力

○適切な実施に係る取組の概要

各授業科目について、具体的な到達目標をシラバスに記載し学生に公表したうえで、農学生命科学部で定めた成績評価基準に基づき成績評価を行い、農学生命科学部学科長会議及び農学生命科学部教授会の議を経て卒業を認定している。

卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.hirosaki-u.ac.jp/policy/policy.html
------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	弘前大学
設置者名	国立大学法人弘前大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.hirosaki-u.ac.jp/wordpress_data/soshiki/zaimu/29/29-2.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.hirosaki-u.ac.jp/wordpress_data/soshiki/zaimu/29/29-2.pdf
財産目録	-
事業報告書	https://www.hirosaki-u.ac.jp/wordpress_data/soshiki/zaimu/29/29-3.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.hirosaki-u.ac.jp/wordpress_data/soshiki/zaimu/29/29-5.pdf

※平成30事業年度の財務諸表等は令和元年9月公表予定。

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:国立大学法人弘前大学平成31年度の業務運営に関する計画 対象年度:平成31年度)
公表方法: https://www.hirosaki-u.ac.jp/information/published/corporation/gyomu.html
中長期計画(名称:中期目標・中期計画一覧表 対象年度:平成28年度~平成33年度)
公表方法: https://www.hirosaki-u.ac.jp/information/published/corporation/gyomu.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.hirosaki-u.ac.jp/information/plan/jiko-gaibu.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.hirosaki-u.ac.jp/information/plan/ninsho.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人文社会科学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.hirosaki-u.ac.jp/reiki/act/frame/frame110000221.htm ）
<p>（概要）</p> <p>人文社会科学部は、多元的な文化理解と多様性認識、地域文化を含む自国の文化の創造力と発信力の養成に力を入れつつ、地域課題を含む現実の課題の解決に重点をおいた実践型教育を提供することで、地域社会の活性化に寄与する人材を育成することを目的とする。</p> <p>○各課程の教育研究上の目的</p> <p>(1) 文化創生課程</p> <p>人文科学分野の専門的知識・技能を学びつつ、国内外の歴史・文化を理解する力、地域の伝統文化を含む自国の文化を創造し発信する力を身につけ、地域の文化振興や地域社会のグローバル化の推進等に寄与する人材を育成する。</p> <p>(2) 社会経営課程</p> <p>社会科学分野の専門的知識・技能を学びつつ、自治体等の政策立案、民間企業の経営戦略、地域住民との協働などの場で課題発見や課題解決のための力を主体的に発揮し、社会に寄与する人材を育成する。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/jinbun/web/gakubu/sidenav/idea.html ）
<p>（概要）</p> <p>人文社会科学部では、カリキュラム・ポリシーに基づいて編成された教育課程にそって人文社会科学分野の諸領域における専門知識・技能等を習得するとともに、高い倫理観と強い社会的使命感をもって、習得した知識・技能等を地域社会の発展のために活用できる人に対して、学士（人文社会科学）の学位を授与します。具体的には、次の目標に達していることが学位取得の要件となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い見識と高度な知識・技能等をもとに、人間の本質を深く理解しつつ、社会の動向を見通す力を身につけていること ・習得した専門知識・技能等を実践の場に活かすことによって、現代社会が直面するさまざまな課題を解決していく力を身につけていること ・歴史文化に対する深い認識と人間社会に対する広い視野をもって、生涯にわたって自分自身を成長させていくための探究力を身につけていること
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/jinbun/web/gakubu/sidenav/idea.html ）
<p>（概要）</p> <p>人文社会科学部では、多元的な文化理解と現代社会に対する多面的理解を重視した教育カリキュラムを提供するという観点から、教養教育と専門教育のカリキュラム・ポリシーを次のように定めます。</p> <p>1) 教養教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い教養と外国語の運用能力をしっかりと身に付け、世界情勢や地域課題を的確に見極める力を養います。 ・基礎ゼミナール等の実践的学習をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに、人間や社会に共通する課題を発見・解決する力を養います。 <p>2) 専門教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人文社会科学分野の専門知識・技能を獲得するとともに、英語をはじめとする外国語の運用能力を実践的な語学教育をとおして身に付けることで、人間文化を多元的に理解す

る力、現代社会の複雑さを的確に見通す力を獲得します。

- ・実習・演習や卒業研究等を通じて、地域の優れた伝統文化を含む自国の文化を創造・発信する力、地域課題を含めて、現実社会が直面する諸課題の解決に役立つ応用力・実践力を獲得します。

3) 各課程・コースについて

【文化創生課程】

文化創生課程では、人文科学分野の専門知識・技能等を学びつつ、国内外の歴史文化の価値を正しく評価する力、自国の文化を創造し発信する力を身につけることを重視した教育を提供するという観点に立って、コースごとのカリキュラム・ポリシーを次のように定めます。

[文化資源学コース]

- ・有形無形の文化資源を適切に取り扱う専門的能力・技能を習得することによって、その学術的価値を的確に見極める力を養います。
- ・文化資源の評価判定や保存等に関する専門的知見・技能を新たな文化資源の発掘等に役立てていくための実践力を養います。
- ・多様な文化資源を生み出した人類の叡智と精神を理解し、それらを人類共通の文化遺産として次世代に伝えていくことを社会的使命として、生涯にわたって実践していくことのできる探究力を身につけます。

[多文化共生コース]

- ・多文化共生の価値観に通暁した人間性の涵養によって、グローバル化が世界的規模で進展している時代の動向を見通す力を養います。
- ・国内外の歴史文化を深く理解しつつ、世界情勢を的確に見極めることによって、現代世界が直面する諸課題をグローバルな視点に立って解決していく力を養います。
- ・グローバル化の世界的進展という状況の中で、多元的な価値観と多様性認識に立った自己理解を生涯にわたって深めていくための探究力を身につけます。

【社会経営課程】

社会経営課程では、社会科学分野の専門知識・技能等を学びつつ、現代社会が直面するさまざまな課題を解決し、より良い社会を構築することのできる応用力を重視した教育を提供するという観点に立って、コースごとのカリキュラム・ポリシーを次のように定めます。

[経済法律コース]

- ・経済学と法学の専門知識・技能をもとに、経済・金融・雇用・生活等にかかわる諸問題の状況を的確に見極めることのできる能力を養います。
- ・現代経済を広い視野に立って認識するとともに、法を体系的に理解するための基礎訓練を通して、創造的で公正かつ適切な問題解決力を身に付けます。
- ・経済・法律上の諸問題を解決するための施策等を生涯にわたって積極的に探究していく力を獲得します。

[企業戦略コース]

- ・経営学と会計学の専門知識・技能をもとに、新ビジネス・新産業の創出やイノベーション等にかかわる諸課題を的確に分析し見通す力を養います。
- ・地域企業の発展や地域産業の活性化に貢献しうる力を身に付けるために、課題発見力・課題解決力・企画提案力・コミュニケーション力を高めます。
- ・企業経営の諸課題を解決するための実効的な方策等を生涯にわたって積極的に探究していく力を獲得します。

[地域行動コース]

- ・社会学・人類学・統計学・情報科学等の専門知識・技能をもとに、地域社会の成り立ちやあり方、地域住民の心理・行動等を的確に分析し見通す力を養います。
- ・フィールドワークと課題解決型学習等を通して習得した専門的知見を地域課題の発見・分析・解決に役立てるための実践力を養います。
- ・地域社会が直面する諸課題を解決するための具体的な手法等を生涯にわたって積極的に

探究していく力を獲得します。

4) 教育カリキュラムの年次編成

1年次には、専門学習に取り組むための基本姿勢を身に付け、広い視野に立って学問的関心を養うことを目的として、主に教養教育科目と学部基本科目を履修します。1年次後半からは、各専門領域に関する講義等とおして、各課程・各コースの教育カリキュラムにもとづく専門学習に向けた理解を深めていきます。

2年次から3年次にかけては、コースごとに設定されている教育カリキュラムの履修をおして、自分自身の専門分野の知識・技能を深めていきます。実習・演習等の実践的科目をおして、研究者倫理も身に付けます。キャリア科目などの高年次教養教育科目をおして、自分自身の人生や社会との関わりも考えていきます。

4年次には、これまで学んできたことを「卒業研究」（または「特定課題研究」）という自分自身の研究テーマに結実させていくことによって、卒業後の進路を見すえた専門知識・技能の定着を図ります。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/jinbun/web/gakubu/sidenav/idea.html>）

（概要）

1) 人文社会科学部が求める学生像

人文社会科学部では、多角的な文化理解と現代社会に対する多面的理解を重視した教育カリキュラムを提供することによって、地域文化を含む自国の文化を創造し発信する力、地域課題を含めて現代社会が直面している諸課題を発見・分析・解決する力を養い、社会に貢献する人材の育成を目的としています。

そのような人材の育成を目指すにあたって、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）と「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

- ・人文科学と社会科学の諸領域（考古学、歴史学、文学、哲学、法学、経済学、経営学、社会学等）にかかわる専門知識・技能等を習得するための基礎学力
- ・学んだ専門知識・技能を文化の振興や社会の発展に役立てるための行動力
- ・人間文化の発展に貢献することや現代社会が直面する複雑な問題を解決することへの意欲

また、人文社会科学部の各課程は、それぞれ次のような学生を求めます。

【文化創生課程】

- ・地域社会の発展のために、地域の文化振興や地域のグローバル化の推進等の活動を担っていきけるような行動力のある人
- ・国内外の有形無形の文化を人類共通の遺産として次世代に伝えていくこと、深い歴史認識に立って世界情勢を的確に見極めることに意欲的である人

【社会経営課程】

- ・地域社会の発展のために、自治体の政策立案や地域産業の育成、地域住民との協働による問題解決等に参加していくことができるような行動力のある人
- ・少子高齢化や人口減少、経済・産業基盤の変化等、現代社会が直面する諸課題を解決することに意欲的である人

2) 入学者選抜の基本方針

- ・教科・科目の学習を通して、歴史文化や社会に関する基礎知識をはじめ、論理的思考力・情報処理能力、コミュニケーション能力等を身につけておく必要があります。
- ・グループ学習等の体験型学習を通して、自分自身の考えを積極的に発信していく力や学習に主体的に参加する姿勢を身につけておく必要があります。
- ・物事を多面的に理解し、複雑化した問題を的確に分析する力を養うために、国内外の様々な問題に広く関心を持つ姿勢や、多様な分野の学習に積極的に取り組む姿勢を身につけておく必要があります。

3) 入学者選抜の基本方針

人文社会科学部では、人文社会科学分野の人材として育つにふさわしい学力・行動力・意欲を有する学生を選抜する目的で、多面的・総合的な評価方法により、別表のとおり入学者を選考します。

※平成32年度入学者向け／平成31年度公表

【別表1】入学者選抜方法と重点評価項目

選抜区分	選抜方法	目的と概要	重点評価項目		
			学力	行動力	意欲
一般入試 (前期)	センター試験	高等学校修了レベルの学習の達成度を評価するという観点から、左記の選抜方法に基づいて総合的に評価して選抜します。	◎		
	個別学力検査				
一般入試 (後期)	センター試験	高等学校修了レベルの学習の成果を幅広く応用・展開し、さまざまな課題を多面的に把握し解決するための資質・能力を評価するという観点から、左記の選抜方法に基づいて総合的に評価して選抜します。	◎		
	小論文				
AO入試・I	小論文	本学部のアドミッション・ポリシーを正しく理解した上で、本学部の教育カリキュラムに基づく学習を主体的に進めていくための資質・能力、適性、意欲・関心等を評価するという観点から、左記の選抜方法に基づいて総合的に評価して選抜します。	○	◎	◎
	個人面接				
	学習計画書				
	調査書				

注) 配点により評価する項目のうち、◎大きい比重、○小さい比重

注) 一般・前期、後期では、調査書の評価を5段階評価とし、総合判定の資料とする。

【別表2】入学者選抜方法の内容と評価要素

選抜方法	選抜区分	選抜内容と評価要素
小論文	一般・後期	人間の営みや現代社会が直面している課題等について、文献等の資料を提示し自身の意見を論述させる。 資料が示していることを十分に理解しているか、設問に対して自分の考えを論理的に述べているか、日本語の文章表現として適切であるか等を判断基準として、「学力」を評価する。
	AO・I	一つのテーマについて論述させる。 設問に対して自分の考えを論理的に述べているか、日本語の文章表現として適切であるか等を判断基準として、「学力」を評価する。
個人面接	AO・I	自己PR、志望理由と入学後の学習計画、大学卒業後の進路等について口頭発表させ、発表内容に関する質疑応答を行う。 アドミッション・ポリシーを念頭に置いた志望課程への関心と意欲が高いか、大学入学後の学習計画と将来への見通しについては明確か、質疑応答が的確になされているか等を判断基準として、「学力」、「行動力」、「意欲」を評価する。
学習計画書	AO・I	志望理由、入学後の学習計画と大学卒業後の進路等について、これまでの勉強や様々な活動を通して得た経験を元に記述させる。 アドミッション・ポリシーを理解し自己PRができているか、志望理由が明確で学習計画は的確に立てられているか、将来の進路希望は明確か等を判断基準として、「学力」、「行動力」、「意欲」を評価する。
調査書	AO・I	高等学校での科目の履修状況、教科外活動の状況、ボランティア活動・各種の資格等の取得等を判断基準として、「行動力」を評価する。

学部等名 教育学部
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.hirosaki-u.ac.jp/reiki/act/frame/frame110000229.htm）</p> <p>（概要） 教育学部は、子どもの発育発達や能力に応じた主体的な学びを支援することのできる専門的知識・技能と実践的指導力を兼ね備え、学校現場や学校を取り巻く地域で活躍できる教員を養成することを目的とする。 ○各課程の教育研究上の目的は次の各号に掲げるとおりとする。</p> <p>（１）学校教育教員養成課程 学校での教科指導・道徳指導・特別活動指導・総合的な学習の指導・生徒指導・特別支援などを担当する教員として、必要な資質や能力を身に付け、深めていくことを目的とする。</p> <p>（２）養護教諭養成課程 子ども達の心身の健康を守り育てていく教員として、必要な資質や能力を身に付け、深めていくことを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.edu.hirosaki-u.ac.jp/about/policy.html）</p> <p>（概要） 教育学部は、教育に関する専門力と実践力を有し、高い倫理性と絶えざる向上心を備えた「教育プロフェッショナル」として、自律的・協働的に教育に貢献し得る者に対して学士（教育学）の学位を授与します。具体的には次の力を有することが学位取得の要件となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育学の専門的な知識や技能を修得し、教育現象を深く洞察できる力 ・教育者としての倫理観や向上心を持ち、教育実践を主体的に推進できる力 ・地域社会で活躍する教育者として、日々変化する教育課題の解決に貢献し続ける力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.edu.hirosaki-u.ac.jp/about/policy.html）</p> <p>（概要） 教育学部は、学校等の教員に求められる専門力と実践力を育成する教育課程を編成・実施します。</p> <p>1) 教養教育について 教育者としての専門職的発達の基礎を築くために、教育への知的好奇心と強い責任感を育むとともに、自律的な学習の習慣とチームでの学び合い・教え合いの習慣を確立します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通す力：学生に諸学問の基礎を修める機会を提供することで、教育が果たすべき社会的使命とは何か、その使命を果たすためにどのような教育実践が求められるのか、多角的に検討するよう促します。 ・解決していく力：学生に地域社会の教育実践の現実に触れる機会を提供することで学生の教育問題への想像力や感受性を養い、学生が一人の教育者として、そして教育の実践共同体の一員として教育問題の解決に挑戦できるよう導きます。 <p>2) 専門教育について 教育学部の専門教育では、教養教育を基礎として以下の3つの力を重点に育みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働きかける力：学生に、教育の目的と制度、内容、方法、児童・生徒理解といった教育実践に関する知識・技能等を深く理解させることにより、自律的に児童・生徒に働きかけていくための専門力を育みます。（自己形成科目群） ・反応を読みとり働きかけ返す力：学生に、学校現場を経験させ、自らの働きかけに対する児童・生徒の反応を的確に読みとり、それに応じた適切な働きかけを考え実践し、児童・生徒等の発達を促すことができるような実践力を培います。（学校臨床科目群） ・自律的発展力：学生に、学校現場体験の省察により、自らの専門力・実践力両面における到達点と課題を明らかにさせ、さらなる知識・技能等の向上を図り、よりよい教員

を目指して成長していく力を築いていきます。(教員発展科目群)

3) 各課程・コースについて

【学校教育教員養成課程】

学校での教科指導・道徳指導・特別活動指導・総合的な学習の時間の指導、生徒指導・特別支援等を担当する教員として、必要な資質や能力を身に付け、深めていけるように促します。また、複雑化・多様化する教育課題や生活に密着した地域特有の教育課題に対応できる実践力を備えた教員養成を行います。

〔初等中等教育専攻〕

小学校コース、中学校コースから成り立ち、小・中学校等の教員として、確かな「専門力」と「実践力」を兼ね備えた教員を養成します。また「地域協働型教員養成プログラム」により、地域の教育課題に対応できる教員の養成を行うとともに、コースの枠を超えた相互連携教育により小中一貫教育へ対応できる教員の養成を行います。

〔特別支援教育専攻〕

特別支援教育に関する深い知識と技術を有し、特別支援学校や特別支援学級、通常学級など特別支援教育の現場で活躍することができる教員を養成します。

【養護教諭養成課程】

子どもたちの心身の健康を守り育てていくため、必要な資質や能力を身に付け、深めていける教員を養成します。児童・生徒、教職員他、様々な人々とコミュニケーションをとりながら、養護実践学的・保健医科学的思考に基づき、子ども自らが心身の健康問題を解決していけるように促せる力を養成します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.edu.hirosaki-u.ac.jp/about/policy.html>)

(概要)

1) 教育学部が求める学生像

教育学部では、子どもの発育発達や能力に応じた主体的な学びを支援することのできる、学校現場で活躍できる専門力と実践力を兼ね備えた教員を養成することを目的としています。この観点から「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）と「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

- ・将来、教員になるための素養と、入学後に修める教養教育と専門教育の基礎となる学力
- ・自立した個人として、または多様な人々と協働して、地域社会における教育に参画していかうとする行動力
- ・教育者を目指して知的・人格的に成長していこうとする意欲

また、教育学部の各課程・専攻は、それぞれ次のような学生を求めます。

【学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻】

- ・小・中学校等の教員として必要な専門力・実践力を身に付けるために、自律的・協働的な態度で学習活動に取り組む行動力のある人
- ・将来、小・中学校等の教員として、学校教育に貢献したいという強い意志と、明確な目標を持っている人

【学校教育教員養成課程 特別支援教育専攻】

- ・障害等の特別な教育的ニーズを教育、心理、病理などの多方面から理解し支援するために、自律的・協働的な態度で学習活動に取り組む行動力のある人
- ・将来、特別支援学校等の教員として、特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の自立に向けた活動に関わることを強く希望する人

【養護教諭養成課程】

- ・養護教諭として必要な専門力・実践力を身に付けるために、自律的・協働的な態度で学習活動に取り組む行動力のある人
- ・子どもの健康に高い関心を持ち、将来、養護教諭として学校教育に貢献するという強い意志を持つ人

- 2) 入学志願者に求める学習の取組
- ・高等学校で履修する教科・科目の基礎的理解だけでなく、取得する教員免許に則した深い学び、課題の把握とその解決に向けたプロセスをわかりやすく表現や説明できる力を習得しておくことが必要です。
 - ・将来、教員として同僚や児童・生徒、保護者とのコミュニケーションを円滑に育めるように、課外活動やボランティア活動など、多様な人々と積極的に関わっていく主体的な経験が望まれます。
 - ・日頃から社会情勢や教育問題に対して関心を持ち、困難な問題にも安易にあきらめることなく乗り越えるための努力を惜しまない姿勢と、自己を高める継続的な向上心を身につけておくことが必要です。

3) 入学者選抜の基本方針

教育学部では学力・行動力・意欲を有する学生を選抜するために、多面的・総合的な評価方法により別表のとおり入学者を選考します。

※平成32年度入学者向け／平成31年度公表

【別表1】入学者選抜方法と重点評価項目

選抜区分	選抜方法	目的と概要	重点評価項目		
			学力	行動力	意欲
一般入試 (前期)	小学校コース、中学校コース（音楽専修・美術専修・保健体育専修除く）、特別支援教育専攻、養護教諭養成課程		◎		
	センター試験	教員として必要な高等学校修了レベルの学習の達成度を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。			
	個別学力検査				
一般入試 (後期)	小学校コース		◎	○	○
	センター試験	高等学校修了レベルの学習の達成度を評価すると共に、小学校教員としての資質・能力・適性、教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。			
	個人面接				
AO入試・ I	中学校コース（音楽専修・美術専修・保健体育専修）		◎	○	○
	実技試験	アドミッション・ポリシーを正しく理解したうえで、本学部の教育カリキュラムに基づく学習を主体的に進めるのに必要な、音楽と美術、保健体育に関する基礎的な技能と知識、教員としての資質・適性、教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。			
	個人面接				
	出願書類（スポーツ競技歴等が分かる資料・調査書） 保健体育専修のみ				
特別支援教育専攻、養護教諭養成課程			○	◎	◎
集団討論	アドミッション・ポリシーを正しく理解したうえで、本学部の教育カリキュラムに基づく学習を主体的に進めるのに必要な、教員としての資質・能力・適性、教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。				
個人面接					
出願書類（自己PR書・活動報告書・調査書）					
AO入試・ II	小学校コース		◎	◎	◎
	小論文	アドミッション・ポリシーを正しく理解したうえで、本学部の教育カリキュラムに基づく学習を主体的に進めるのに必要な、小学校教員としての資質・能力・適性、教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心を評価すると共に、高等学校			
	個人面接				
	集団討論				
出願書類（自己PR					

	書・活動報告書・調査書)	修了レベルの学習の達成度を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。			
--	--------------	---	--	--	--

注) 配点により評価する項目のうち、◎大きい比重、○小さい比重

注) 一般入試では「調査書」の評価を5段階評価とし、総合判定の資料とする。

【別表2】入学者選抜方法の内容と評価要素

選抜方法	選抜区分	選抜内容と評価要素
実技試験	AO・I	中学校コース（音楽専修・美術専修・保健体育専修） 事前に提示した課題または運動種目について実技試験を行う。 基本的な能力・技術等を把握し、音楽・美術・保健体育の教員として必要な「学力」を評価する。 音楽専修においては、演奏楽曲に関する知識等に関する口頭試問も含む。
小論文	AO・II	小学校コース 広い意味での教育に関する課題について自身の考えを記述させる。①内容（出題の意図を的確にとらえ、自分なりの考えを明確に主張しているか等）、②表現（文章の論理構成、適切な日本語、文字の表記、字数の過不足）により、「学力」と「意欲」を評価する。
集団討論	AO・I	小学校コース、特別支援教育専攻、養護教諭養成課程 与えられたテーマについてグループで討論を行う。討論を通して、①話し方・聞き方等のコミュニケーション能力、②発言内容、③教員としての適性等を把握し「学力」「行動力」「意欲」を評価する。
	AO・II	
個人面接	一般・前期	質疑応答等を通して、①自己表現能力、②教職への目的意識、③教員としての資質・能力・適性、④教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心等を把握し、「行動力」と「意欲」を評価する。 AO・Iの保健体育専修においては、保健体育に関する知識を問う口頭試問も行い、「学力」も評価する。
	一般・後期	
	AO・I	
	AO・II	
自己PR書	AO・I	小学校コース、特別支援教育専攻、養護教諭養成課程 志望理由を含めた自己PR書を、自由な形式で作成する。①教職への目的意識、②教員としての適性・資質・能力、③教員になろうとする意欲と教育に対する興味・関心等を把握し、「行動力」と「意欲」を評価する。
	AO・II	
活動報告書	AO・I	小学校コース、特別支援教育専攻、養護教諭養成課程 当該コース・専攻・課程に関連する学校・家庭・地域での体験を記載した活動報告書を、自由な形式で作成する。課外活動やボランティア活動など、多様な人々と積極的に関わっていく主体的な活動内容から「行動力」と「意欲」を評価する。
	AO・II	
スポーツ競技歴等が分かる資料	AO・I	中学校コース（保健体育専修） 校内外における体育活動並びにスポーツ活動についての競技成績が分かる資料の内容（専門種目に対する取り組み）を把握し、「行動力」と「意欲」を評価する。
調査書	一般・前期	高等学校での教科外活動の状況、ボランティア活動・プロジェクト活動など校内外での活動、各種の資格・免許取得などにより、「行動力」「意欲」を評価する。
	AO・I	
	AO・II	

学部等名 医学部医学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.hirosaki-u.ac.jp/reiki/act/frame/frame110000240.htm ）
<p>（概要）</p> <p>医学部は、高度な知識及び技術と科学的素養を身に付け、豊かな人間性をもって医学・医療に貢献する人材の育成を目的とする。</p> <p>○医学科における人材養成に関する目的及び教育研究上の目的は次の各号に掲げるとおりとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> （1）豊かな人間性と高度の医学知識に富み、広い視野と柔軟な思考力をもって社会的役割を的確に果たすことができる医師及び医学研究者を養成する。 （2）常に進歩を続ける医学を効果的に教育するためのカリキュラムを整備し、具体的な到達目標を明示することによって、学生が自主的に学習できるような教育を行う。 （3）明確な目的意識と使命感を持った医師及び医学研究者を養成するために、学生が深く真理を探究し、人間性と社会性を高めることのできる教育を行う。 （4）国際水準の基礎的、かつ、応用的な医学研究を推進するとともに、高度で先端的な医療を地域社会と連携して実践する。
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.med.hirosaki-u.ac.jp/web/igakubu_policy.html ）
<p>（概要）</p> <p>医学部医学科では、カリキュラム・ポリシーに基づいて編成された教育課程にそって医学的専門知識と技能を習得するとともに、人間の尊厳を希求し、医学の発展の一翼を担うために、求められる社会的役割を的確に果たすことができる三つの素養を、身につけたものに対して学士（医学）の学位を授与します。具体的には、次の目標に達していることが学位授与の条件となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人間性と高度な医学の専門知識を身につけ、人間的・科学的観点から社会の要請を見通す力を身につけていること ・広い視野と柔軟な思考力を基盤に、医療・医学の問題を解決していく実践的な力を身につけていること ・専門性を生かした国際基準の基礎的かつ、応用的な医学・医療を常に学修し、生涯にわたり自らを成長させ続ける力を身につけていること
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.med.hirosaki-u.ac.jp/web/igakubu_policy.html ）
<p>（概要）</p> <p>医学部医学科は、国際認証に相応しい医学教育に基づき、学生の知性ならびに人間性・社会性を育む教育課程を編成・実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教養教育について <p>教養教育は、医師・医学研究者を目指す学生の探究の第一歩です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生に人類の叡智たる諸学問の構造を俯瞰する機会を提供することで、複眼的思考および多元的価値観に立脚した省察を促します。これにより、高度先端医療や地域医療が抱える複雑な問題の本質を見通す力を養います。 ・学生に高度先端医療や地域医療の実情や問題の複雑さに触れる機会を提供します。これにより、学生が個人およびチームとして問題の解決に挑戦できるよう導いていきます。 2) 専門教育について <p>医師・医学研究者を目指す専門教育は、学生の探究の集大成です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生に国際認証に対応した医学的専門知識と技能を体系的に教授することで、医療・医学への洞察を深化させます。 ・学生に、医学的専門知識と技能を医療・医学の問題解決に応用したり、高度な学識を活かして学術的問題の解決に取り組んだりする機会を提供します。これに加えて各専門領域の深い見識と医療倫理・医学倫理も、実践を通して培います。

・診療参加型実習を主体に、学生が医療現場の一員として充実した大学生活を送るとともに、より良い社会の実現に貢献していくことができるように、学生の探究の習慣を確立します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
http://www.med.hirosaki-u.ac.jp/web/igakubu_policy.html）

（概要）

1) 医学部医学科が求める学生像

医学部医学科では、豊かな人間性と高度の医学知識に富み、広い視野と柔軟な思考力をもって社会的役割を的確に果たすことができる医師及び医学研究者の養成を目的としています。

そのような人材の養成を目指すにあたって、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）と「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

- ・医学教育を受けるに十分な素養で、入学後に修める教養教育と専門教育の基礎となる学力
- ・他人を思いやるやさしさと社会性を持ちながら、高度で先端的な医療を地域社会と連携しながら実践してゆく行動力
- ・生涯にわたり医師として医療・医学に貢献したいという明確な目的を持ち、何事にも前向きに取り組み、知的・人格的に成長していこうとする意欲

2) 入学志願者に求める学習の取組

- ・医学を修めるために、理系科目だけでなく、英語や文系科目もしっかりと履修し、応用力を伴った総合的学力を身につけておくことが必要です。
- ・将来、様々な医療職と連携し、多様なニーズに対応できる医療を実践するためには、コミュニケーション能力と協調性を身につけておくことが必要です。
- ・医学・医療を取り巻く社会問題や地域の動向に関心を持ち、自ら積極的に学ぶ姿勢を身につけておくことが必要です。

3) 入学者選抜の基本方針

医学部医学科では学力・行動力・意欲を有する学生を選抜するために、多面的・総合的な評価方法により別表のとおり入学者を選考します。

※平成32年度入学者向け／平成31年度公表

【別表1】入学者選抜方法と重点評価項目

選抜区分	選抜方法	目的と概要	重点評価項目		
			学力	行動力	意欲
一般入試 (前期)	センター試験	高等学校卒業レベルの学習の成果を幅広く応用・展開し、さまざまな課題を多面的に把握し解決するための資質・能力を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。	◎	○	○
	個別学力検査				
	個人面接				
AO入試・II	模擬講義に関する筆記試験	本学科の教育カリキュラムに基づく学習を主体的に進めていくための資質・能力、適性、意欲・関心等を評価する観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。	○	◎	◎
	ケーススタディの自学自習				
	ワークショップ				
	個人面接				
	調査書				
学士編入学 (第2年次)	TOEFL	修業年限4年以上の大学卒業レベルの学習の達成度及びさまざまな課題を多面的に把握し解決す	◎	◎	○
	基礎自然科学				

	・数学	るための資質・能力を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。			
	個人面接				

注) 配点により評価する項目のうち、◎大きい比重、○小さい比重
注) 一般入試（前期）では、調査書の評価を5段階評価とし、総合判定の資料とする。
注) すべての選抜において、自己推薦書は個人面接の参考資料とする。

【別表2】入学者選抜方法の内容と評価要素

科目群	選抜方法	目的と概要
個人面接	一般・前期	事前に提出される「自己推薦書」を資料に用いて、志望理由、医療に対する関心、卒業後の進路等について、質疑応答を行うことにより、「行動力」、「意欲」を評価する。
	AO・II	
	学士編入学	
模擬講義に関する筆記試験	AO・II	模擬講義を行い、講義内容に関する筆記試験を通して、理解能力・基礎的知識等の「学力」を評価する。
ケーススタディの自学自習	AO・II	与えられたシナリオ及び資料を読み、自身の考えを論述させる。読解力、日本語の文章力、論理的な表現力を通して、「学力」を評価する。
ワークショップ	AO・II	与えられたテーマについて、グループで問題を解く。コミュニケーション能力、協調性、積極性等により、「行動力」、「意欲」を評価する。
TOEFL	学士編入学	英語について、修業年限4年以上の大学卒業レベルの「学力」を評価する。
基礎自然科学・数学	学士編入学	物理・化学・生物・数学の筆記試験を通して、修業年限4年以上の大学卒業レベルの「学力」を評価する。
調査書	AO・II	高等学校での科目の履修状況、出席状況、教科外活動の状況、ボランティア活動などにより、「学力」、「行動力」、「意欲」を評価する。

学部等名 医学部保健学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.hirosaki-u.ac.jp/reiki/act/frame/frame110000240.htm ）
<p>（概要）</p> <p>医学部は、高度な知識及び技術と科学的素養を身に付け、豊かな人間性をもって医学・医療に貢献する人材の育成を目的とする。</p> <p>○保健学科における人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的は次の各号に掲げるとおりとする。</p> <p>（1）高度の医療技術はもとより豊かな人間性と倫理性を備えた保健医療の専門職を育成する。</p> <p>（2）問題を科学的に分析し解決する能力と独創性を備えた保健医療の専門職を育成する。</p> <p>（3）協調性に富み、多職種による連携協力の実践を通して国民の健康と福祉に貢献できる保健医療の専門職を育成する。</p> <p>（4）国際的視野を備えて活躍できる保健医療の専門職を育成する。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.hs.hirosaki-u.ac.jp/web/gakubu/kd_policy_h30.html ）
<p>（概要）</p> <p>医学部保健学科では、カリキュラム・ポリシーに基づいて編成された教育課程にそって保健医療分野における専門知識・技能等を習得するとともに、豊かな人間性と倫理性を兼ね備え、国民の健康と福祉に貢献できる者に対して、看護学専攻は学士（看護学）の学位を、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻は学士（保健学）の学位を授与します。具体的には、次の目的に達していることが学位取得の要件となります。</p>

- ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い知識と各保健医療専門職としての専門的な知識・技術をもとに、保健医療分野の動向を見通す力を身につけていること
- ・修得した専門的知識・技術を保健医療の場で活かすことにより、直面する課題を解決する力をもっていること
- ・医療専門職者として保健医療を正しく認識し社会貢献を意識し、生涯にわたり自分自身を成長させていくための探求力を身につけていること

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

https://www.hs.hirosaki-u.ac.jp/web/gakubu/kd_policy_h30.html）

（概要）

医学部保健学科では、高度の医療技術はもとより、豊かな人間性と倫理性を兼ね備え、国民の健康と福祉に貢献できる保健医療の専門職の育成を目的とした、教養教育と専門教育のカリキュラム・ポリシーを次のように定めます。

1) 教養教育について

- ・幅広い教養と外国語の運用能力を身に付け、保健医療分野の国際状況や地域状況を的確に見極める力を養います。
- ・基礎ゼミナール等で培った実践的学習能力をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに、保健医療分野の課題を発見・解決する力を養います。

2) 専門教育について

- ・専門共通科目では、各専攻に共通して必要な基礎科目の他、コア科目を設けています。コア科目は、保健医療専門職の立場から他領域を理解するとともに、保健医療への考え方及び保健医療専門職者としての資質の育成を目指します。
- ・専門基礎科目及び専門科目は、養成する保健医療専門職の国家試験受験資格を満たすために必要な科目であり、1年次から専門科目を組み込んだ楔型の構成とし、講義の後に演習・実習を展開します。

3) 各専攻について

【看護学専攻】

- ・看護専門職に必要な知識を体系的に教授することで、人間や社会への洞察を深化させ見通す力を身に付けます。
- ・看護学の専門知識を活用し、社会的ニーズの変化に気づき柔軟に対応し、チーム医療の一員として、他職種と連携・協働、調整能力を発揮し問題を解決していく力を培います。
- ・看護専門職の教育や啓発に役立つ基礎的能力を身につけ、創造力と探求の習慣を確立し、生涯にわたって看護学を発展・向上させようと学び続ける力を培います。

【放射線技術科学専攻】

- ・専門知識と技術を統合するよう体系的に教授することで、論理的思考と客観的判断に基づく洞察力を養います。
- ・放射線技術の専門知識を最新の医療技術に応用し、高度な専門知識を活かして問題を解決するための学術的問題解決能力を養います。
- ・診療放射線技師として、日々目覚ましく進歩を遂げる医療技術を学び、探求する習慣を獲得します。

【検査技術科学専攻】

- ・臨床検査技師として必要な実践力を習得すると共に、専門知識と判断力をもって保健医療の一端を担う臨床検査学の諸問題を的確に見極める能力を身につけます。
- ・チーム医療の一員として地域の保健医療に貢献できる連携能力を身につけ、問題解決能力を高めます。
- ・臨床検査技師として、保健医療分野の諸問題を探求し学び続ける力を獲得します。

【理学療法学専攻】

- ・理学療法学の専門的知識とリハビリテーション関連領域の知識を学ぶことにより、理学療法の対象者が抱える諸問題を的確に分析する力を身につけるとともに、保健医療福祉

の観点から理学療法学の課題を見極める力を身につけます。

- ・理学療法の対象者や取り巻く家族等が抱える問題を、理学療法のみならず、専門職連携などにより多面的に解決する実践的な力を身につけます。
- ・理学療法士の見識と職業倫理を、実践等を通して培い、生涯を通じて自己研鑽に努め、理学療法学の発展や教育に寄与できる力を身につけます。また、理学療法学の学術的課題を計画的および論理的に解決するための手法を研究方法の学習と体験を通して身につけます。

【作業療法学専攻】

- ・作業療法士に必要とされる実践力を習得し、専門知識と判断力をもってリハビリテーション医療に関わる作業療法学の諸問題を的確に見極める能力を身につけます。
- ・チーム医療の一員として地域のリハビリテーション医療に貢献しうる力を身につけ、問題解決能力を高めます。
- ・作業療法士として、リハビリテーション医療分野の諸問題を探求し学び続ける力を獲得します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.hs.hirosaki-u.ac.jp/web/gakubu/a_policy.html）

（概要）

1) 医学部保健学科が求める学生像

医学部保健学科では、保健医療の高度な知識及び技術を習得し、豊かな人間性と問題解決能力を備え、創造性、独創性と国際的視野を有し、社会で活躍できる人材の育成を目的としています。

そのような人材の育成を目指すにあたって、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）と「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

- ・保健医療専門職となるための学修に必要な基礎的学力
- ・将来、他の医療職者と協調しながら保健医療活動を実践するための行動力
- ・向上心と研究心を基に、保健医療の実践者として社会に貢献する強い意欲

また、医学部保健学科の各専攻は、それぞれ次のような学生を求めます。

【看護学専攻】

- ・人間や生命、健康に関心を持ち、看護専門職者として知的・人格的に成長しようとする意欲のある人
- ・人間の尊厳を重んじ、人や社会、文化の多様性を認め、人と良好な関係を築くことができる人

【放射線技術科学専攻】

- ・診療放射線技師専門職となるための学修に必要な学力を有し、特に理系の科目をしっかりと履修した人
- ・チーム医療の一員として積極的にコミュニケーションを図り、他の医療技術者と互いに協力し合い、より良い医療を提供するための行動力のある人
- ・医療を安全に行う能力を有し、生涯にわたり向上心・探究心を持ち続け、知的・人格的に成長しようとする意欲のある人

【検査技術科学専攻】

- ・医療従事者としての自覚とチーム医療遂行のための協調性を持ち、鋭い観察力と洞察力ならびに応用力を備えて保健医療の発展のために積極的に行動できる人
- ・自然科学、保健医療、臨床検査に強い関心を持ち、検査職を通して人々の健康維持・増進に積極的に取り組む意欲のある人

【理学療法学専攻】

- ・他者と適切な関係を築きながら、様々な人々と協働して、障害者等が抱える問題の解決に取り組む行動力を有する人
- ・理学療法士として向上心・研究心を持って保健医療に取り組み、障害者等のリハビリテーションに貢献したいという強い意欲のある人

【作業療法学専攻】

- ・作業療法の対象者の個別の価値観や生活を尊重し、対象者の希望に沿った作業活動を考えつつ実践するための行動力のある人
- ・チーム医療の一員として、他職種を尊重しながら、作業療法を積極的に実行する意欲のある人

2) 入学志願者に求める学習の取組

- ・医療従事者は、高度な知識や技術が求められますので、高等学校においては履修するすべての教科についての幅広い知識が必要とされます。
- ・チーム医療の一員として医療にかかわることも多いため、課外活動やボランティア活動も含めて積極的な取り組みを行う行動力を持っていることが望まれます。
- ・研究心や探求心などに基づき、様々なことにかかわる意欲や他者への思いやりを持つことが必要です。

3) 入学者選抜の基本方針

医学部保健学科では学力・行動力・意欲を有する学生を選抜するために、多面的・総合的な評価方法により別表のとおり入学者を選考します。

※平成32年度入学者向け／平成31年度公表

【別表1】入学者選抜方法と重点評価項目

選抜区分	選抜方法	目的と概要	重点評価項目		
			学力	行動力	意欲
一般入試 (前期)	センター試験	高等学校修了レベルの学力と強い意欲・行動力のある人を選抜する目的で、「学力」に重点を置いて選抜します。	◎		
	個別学力検査				
AO入試・II	センター試験	高等学校修了レベルの学力と強い意欲・行動力のある人を選抜する目的で、「学力」、「行動力」、「意欲」のすべてに重点を置いて選抜します。	◎	◎	◎
	小論文				
	個人面接				
	自己PR書 調査書				
編入学入試 (第3年次)	学力検査	専門教育についての学習に強い意欲と行動力を有する人を選抜する目的で、「学力」、「行動力」、「意欲」のすべてに重点を置いて選抜します。	◎	◎	◎
	小論文				
	個人面接				
	成績証明書				

注) 配点により評価する項目のうち、◎大きい比重、○小さい比重

注) 一般・前期では、調査書の評価を5段階評価とし、総合判定の資料とする。

注) 編入学試験では、志望理由書は面接の基礎資料とする。

【別表2】入学者選抜方法の内容と評価要素

選抜方法	選抜区分	選抜内容と評価要素
小論文	AO・II	日本の保健医療が現代社会で直面している課題等をテーマに自身の考えを記述させます。日本語の文章力、論理的な表現力の観点から、「学力」を評価します。
	編入学	
個人面接	AO・II	自己PR、志望理由、入学後の学習計画と大学卒業後の進路、高等学校での学習や課外活動等について質疑応答を行います。志望理由、専門分野に関する興味関心について等の質疑応答の内容から「意欲」、課外活動・ボランティア活動についての質疑応答の内容から「行動力」を評価します。
	編入学	
学力検査	編入学	英語の基礎学力を問う問題に解答させます。英文和訳においては

		英語の文章の読解力と日本語の表現力を評価します。
自己PR書	AO・II	志望理由、主な活動実績について、これまでの学習や様々な活動を通して得た経験を基に自分の考えを記入させます。本学科に対する理解や、専門分野に対する強い興味・関心、主体的に学び続けようとする積極性などにより、「行動力」、「意欲」を評価します。
調査書	AO・II	高等学校での科目の履修状況、教科外活動の状況、ボランティア活動・プロジェクト活動など校外での活動、各種の資格・免許取得などにより、「学力」、「行動力」、「意欲」を評価します。
成績証明書	編入学	専門職に必要とされる専門教育科目履修状況を評価し、入学資格の判定に利用します。

学部等名 理工学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.hirosaki-u.ac.jp/reiki/act/frame/frame110000258.htm ）
<p>(概要)</p> <p>理工学部は、高度な専門知識や技術の修得に加え、豊かな倫理観と国際感覚を備え、創造力と適応力及び総合判断力に富む人材の育成を目的とする。</p> <p>○各学科の教育研究上の目的は次の各号に掲げるとおりとする。</p> <p>(1) 数物科学科</p> <p>数学と物理学の基礎を踏まえて、様々な社会現象を数理的、計算科学的に処理できる能力及び地域発のイノベーションの核となりうる柔軟な応用力を持つ人材を養成する。数学、物理、情報科学の基礎を学び、社会で直面する複雑な問題を能動的に解決する能力や社会で必要とされる判断力・コミュニケーション能力を身に付けるよう教育研究を行う。</p> <p>(2) 物質創成化学科</p> <p>化学の基幹学問領域である無機化学、有機化学、分析化学及び物理化学の教育に重点を置き、基礎学力を有した人材を育成する。基礎化学を基に、それぞれの応用化学の専門分野を学び取り、社会の要請に対応した技術、物質、素材等の研究開発能力を身につけた創造性に優れた研究者、技術者を育成する。</p> <p>(3) 地球環境防災学科</p> <p>地球とそれを取り巻く領域を物理や化学を基礎として精密に扱うとともに、地球全体を一連のシステムと捉えた教育研究も実施する。それにより、地域に密着した視点とグローバルな観点から、地球環境問題や自然災害など今後の人類が直面する課題に対応できる人材を育成する。</p> <p>(4) 電子情報工学科</p> <p>電子技術、情報技術(IT)、それらの融合たる組込み系技術の強化を軸としたIT基盤技術に関する教育研究を遂行し、グリーン電子材料・システム対応技術、組込みシステム技術、バイオ・メディカル関連技術、情報セキュリティ技術等、地域や社会からの多様な要請に対応できる、実践力を伴う技術者・研究者を育成する。</p> <p>(5) 機械科学科</p> <p>機械工学の基礎を基盤とし、知能化機械技術者として国際的に活躍できる多様で柔軟な思考力を備えた創造性に富む人材、また、新産業分野として創出が加速される医用システム産業に対応できる専門性の高い人材を育成する。</p> <p>(6) 自然エネルギー学科</p> <p>エネルギー資源からエネルギー変換・輸送・貯蔵・利用、そしてエネルギーシステムに関する分野をベース知識とし、それぞれの分野におけるエネルギー政策、人文社会科学や経済学との連携に基づいて、グローバルな視点からエネルギー問題を総合的視点で捉えて次世代エネルギー分野へと展開できる人材を育成する。</p>

<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/curriculum/c-faculty.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>理工学部では、カリキュラム・ポリシーに基づいて編成された教育課程にそって理工学の諸分野における専門知識・技能等を習得し、高い倫理観をもって知的探求に取り組み、科学・技術、世界と地域の発展のために活用できる力を身につけた人に対して、学士（理工学）の学位を授与します。具体的には、次の目標に達していることが学位取得の要件です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教養教育と専門教育をとおして培った幅広い見識と高度な知識・技能等をもとに、自然科学の本質を深く理解し、理工学と社会の動向を見通す力を身につけていること ・習得した専門知識・技能等を実践の場に活かすことによって、現代社会が直面するさまざまな課題を解決していく力を身につけていること ・自然科学と理工学に対する深い認識と探究心をもって、生涯にわたって自らを成長させていくための力を身につけていること
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/curriculum/c-faculty.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>理工学部では、変化する現代社会に対応できる幅広い視野と科学・技術の発展に貢献できる力を養う教育カリキュラムを提供するという観点から、教養教育と専門教育のカリキュラム・ポリシーを次のように定めます。</p> <p>[教養教育について]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い教養と外国語の運用能力を身につけ、変化の激しい現代社会の情勢や地域の課題を的確に見極める力を養います。 ・基礎ゼミナール等の実践的学習をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに、人間や社会に共通する課題を発見・解決する力を養います。 <p>[専門教育について]</p> <p>自然科学を礎として、理工学の諸分野の専門知識・技能を獲得するとともに、自然科学への洞察を深化させ探究心を身につけることで、変化の激しい科学・技術や社会の問題を分析し、課題を見通す力を養います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学・技術の課題に挑戦し発信する力、国際社会や地域社会が直面する科学・技術の課題の解決に役立つ応用力・実践力を、演習・実験や卒業研究をとおして養います。 ・自己管理能力、協調性、コミュニケーション能力を養い、社会の一員としての自覚を培うとともに、専門家としての見識と職業倫理を養います。 ・探究心を身につけ、人類の福祉に貢献するために、常に学びつづける力を養います。 <p>【数物科学科】</p> <p>「自然現象や社会現象の解明に必要な論理や法則を探究する学問である数学と物理学を学ぶことにより、科学的知識に裏打ちされた应用能力を身につけること」を重視した教育を提供する観点に立って、コースごとのカリキュラム・ポリシーを次のように定めます。</p> <p>[数理科学コース]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学の知識を活かして、科学・技術や社会の問題を分析し、数理的な問題を的確に見極める力、問題の本質を構成する法則性を見いだす力を養います。 ・代数学、幾何学、解析学、応用数学の知識を活かして課題を数理的に解決する力を養います。 ・知的探求心と自由な発想を持ち、科学・技術や社会の問題の解決に取り組むために学びつづける力を養います。 <p>[物質宇宙物理学コース]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物理学に関連する専門知識を活かして、科学・技術や社会の問題を分析し、課題を見極める力を養います。

- ・物質材料と宇宙に関する物理学に関連する高度な学識を活かして、学術的な課題、国際社会や地域社会の課題に取り組む力を養います。
- ・物理学を礎とする技術者・研究者として技術革新を起こしていく力を養います。
- ・知的探究心と自由な発想を持ち、科学・技術や社会の問題の解決に取り組むために必要な知識や技能を学びつづける力を養います。

【応用計算科学コース】

- ・計算科学に関連する専門知識を活かして、自然や社会への洞察を深化させ、問題を分析し課題を見極める力を養います。
- ・主に計算科学に関連する専門知識を、国際社会や地域社会の問題や課題の解決に応用する力を養います。
- ・知的探究心と自由な発想を持ち、科学・技術や社会の問題の解決に取り組むために必要な知識や技能を学びつづける力を養います。

【物質創成化学科】

「有機化学、無機化学、分析化学及び物理化学の学習を基盤として、化学の知識と応用力を体系的に修得し、機能性物質の開発、環境調和を指向した機能性材料、リサイクル技術、省エネルギー・省資源技術の研究開発に貢献する力」を身につけることを重視した教育を提供する観点に立って、学科のカリキュラム・ポリシーを次のように定めます。

- ・化学の基礎知識を体系的に理解し、問題の本質を化学の視点から分析し見極める力を養います。
- ・基礎的知識に立脚して化学の応用面について理解を深め、科学・技術や社会の課題を解決する力を養います。
- ・化学に関する専門知識・技能を活かして、科学・技術の発展に貢献していくことができるように探求の習慣を養うとともに、科学・技術や社会の問題の解決に必要な知識や技能を学びつづける力を養います。

【地球環境学科】

「地域に密着した視点とグローバルな観点から、地球環境問題や自然災害など日本と世界が直面する課題に対応できる力」を身につけることを重視した教育を提供する観点に立って、学科のカリキュラム・ポリシーを次のように定めます。

- ・自然科学と社会科学の知識を活かし、ローカルなスケールからグローバルなスケールまでの多様な現象を分析し、本質的な課題を見いだす力を養成します。
- ・高度専門職業人として地球環境問題の解決や自然災害の防止に取り組み、科学・技術や社会の課題の解決に取り組むための力を養います。
- ・日本と世界が直面する課題に対応し、地球環境や自然災害に関する課題や、科学・技術や社会の問題を解決するために必要な知識や技能を学びつづける力を養います。

【電子情報工学科】

「電子工学、情報工学、情報科学、並びにそれらの融合領域における基礎から応用までの専門知識を体系的に履修し、電子情報分野の技術革新を支える力」を身につけることを重視した教育を提供する観点に立って、学科のカリキュラム・ポリシーを次のように定めます。

- ・高度情報化社会の電子・情報技術者に求められる基礎学力を基盤として、科学・技術や社会の問題を分析し、課題を見通す力を養います。
- ・電子情報工学や関連分野の専門知識・実践的な技能を活かして、科学・技術、国際社会や地域社会の問題を解決する力を養います。
- ・論理的思考能力と問題解決能力を養い、国際社会や地域社会の一員としてより良い社会の実現に貢献し、科学・技術や社会の問題を解決するために必要な知識や技能を学びつづける力を養います。

【機械科学科】

「機械工学の基礎を基盤として、技術者・研究者として国際的に活躍できる多様で柔軟な思考力や、新産業分野として創出が加速される医用システム産業に対応することができる専門家としての力」を身につけることを重視した教育を提供する観点に立って、コースごとのカリキュラム・ポリシーを次のように定めます。

<p>[知能システムコース]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械工学を基盤として、機械技術者・研究者の立場から科学・技術や社会の問題を分析し、課題を見いだす力を養います。 ・機械工学や関連分野の専門知識・技能を活かして、科学・技術、国際社会や地域社会の問題を解決する力を養います。 ・機械工学をとおして人類や社会が直面する諸課題を解決し、人類の福祉に貢献する具体的な方法を探求するために必要な知識や技能を学びつづける力を養います。 <p>[医用システムコース]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械工学の基礎と医用工学の基礎を基盤として、人の健康を支える科学・技術や社会の問題を分析し、課題を見通す力を養います。 ・機械工学と医用工学の専門分野の知識・技能を活かして人の健康を支える科学・技術、国際社会や地域社会の問題を解決する力を養います。 ・機械工学と医用工学をとおして人類や社会が直面する諸問題を解決し、人類の福祉に貢献する具体的な方法を探求するために必要な知識や技能を学びつづける力を養います。 <p>【自然エネルギー学科】</p> <p>「再生可能な自然エネルギーを基盤とし、枯渇性エネルギーおよび地域に豊富に存在する資源を踏まえ、エネルギー変換・貯蔵・利用過程・エネルギーシステム全般・環境に配慮した省エネルギー技術の基礎知識や、実践的・総合的かつグローバルな視点とローカルな視点に立つ科学的な対応能力を身につけ、自然エネルギーによる持続可能な未来社会の構築に貢献する力」を身につけることを重視した教育を提供する観点に立って、学科のカリキュラム・ポリシーを次のように定めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然エネルギー資源及び変換・貯蔵・利用などの専門知識を基盤として、エネルギー、科学・技術や社会の問題を分析し、課題を見いだす力を養います。 ・様々なエネルギー技術とその基礎知識を活かして、エネルギー、科学・技術、国際社会や地域社会の問題を解決する力を養います。 ・自然エネルギーをとおして人類や社会が直面する諸課題を解決し、人類の福祉に貢献する具体的な方法を探求するために必要な知識や技能を学びつづける力を養います。 	
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/admission/a-policy-faculty.html）</p>	
<p>(概要)</p> <p>1) 理工学部が求める学生像</p> <p>理工学部では、変化する現代社会に対応できる幅広い視野と科学・技術の発展に貢献できる力を養う教育カリキュラムを提供することによって、自然のしくみを探究する力、先端技術社会を支える科学を進展させ技術を創造する力、変化する現代社会が直面する課題を発見・分析・解決する力を養い、地域や国際社会に貢献する人材の育成を目的としています。</p> <p>そのような人材の育成を目指すにあたって、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）と「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門教育の基礎となる理数系の学力、および社会の中で専門的能力を活かすための基礎学力 ・高等学校までに学習すべき課題に真摯に取り組むとともに、自らの個性や資質に合わせてその他の活動にも積極的に参加し、自らを成長させていく行動力 ・専門を生かして新たな課題を見だし、解決するために学び続ける意欲 <p>また、理工学部の各学科は、それぞれ次のような学生を求めます。</p>	
数物科学科	<p>(数学型)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数理科学への強い興味を持ち、数理科学に関する分野の学習に興味を持って取り組む意欲のある人 ・探究心が旺盛で豊かな数学的知識と自在な数理的応用力をもって社会に貢献する意欲のある人

	<p>(物理型)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然の基本原理に興味を持ち、物理学に関する分野の学習に興味を持って取り組む意欲のある人 ・物質を構成しその性質を決定している量子の世界から広大な宇宙の世界までを支配している自然の基本原理を理解し、より深く探求することやその成果を社会へ還元することに意欲のある人
物質創成化学科	<ul style="list-style-type: none"> ・化学物質の構造や化学反応のしくみを物質の機能と結びつけて探求することに興味を持ち、化学に関する分野の学習に興味を持って取り組む意欲のある人 ・自ら課題を見だし、暮らしを豊かにする機能性物質や環境調和を指向した機能性材料を創成し、リサイクル、省資源、エネルギー創成技術等に関する諸課題を解決するための研究開発に意欲のある人
地球環境防災学科	<ul style="list-style-type: none"> ・宇宙空間、大気・水圏、地質・岩石、地震・火山等を対象とした地球科学に関する分野の学習に興味を持って取り組む意欲を持つ人 ・自ら課題を見だし、地球に関する科学の深化や、地球環境問題の解決、自然災害の防止に貢献することに意欲のある人
電子情報工学科	<ul style="list-style-type: none"> ・電子回路、電子材料、コンピュータとソフトウェア、通信ネットワーク、セキュリティ、組込みシステムなどの電子情報工学に関する分野の学習に興味を持って取り組む意欲のある人 ・電子情報工学の発展に強い関心を持ち、学んだことの成果を社会の様々な分野で活用することに意欲のある人
機械科学科	<ul style="list-style-type: none"> ・医用・福祉、環境・エネルギー、航空宇宙、輸送機械、ロボット、AI、ナノテクノロジーなどの機械科学に関する分野の学習に興味を持って取り組む意欲のある人 ・ものづくりに関する科学技術の発展に強い関心を持ち、失敗を恐れず継続してものごとに取り組む、学んだことの成果を社会の様々な領域で活用することに意欲のある人
自然エネルギー学科	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や人間社会に深い興味を持ち、自然エネルギーに関する多様な分野の学習に興味を持って取り組む意欲のある人 ・地域に存在する自然エネルギー源を利用することや、その活用に意欲のある人

2) 入学志願者に求める学習の取組

- ・理工学分野の学問を学ぶために必要な力として、論理的思考力、自然科学に関する基礎知識、表現やコミュニケーションの能力を身につけておくことが必要です。
- ・自ら課題を探求し、主体的に取り組む学習態度、新しい発見や創造的な活動に取り組むための行動力が必要です。また、他者と協働して学習や研究などに取り組むことができる行動力や学習態度が必要です。
- ・困難な課題に対しても安易にあきらめることなく取り組み、やり遂げようとする意欲を持ち続けることが必要です。また、自然界の仕組みや社会を支える技術について日頃から興味を持ち、学習に自発的に取り組む態度が必要です。

3) 入学者選抜の基本方針

理工学部では、前記の学力・行動力・意欲を有する学生を選抜するために、多面的・総合的な評価方法により、別表のとおり入学者を選考します。

※平成32年度入学者向け／平成31年度公表

【別表1】入学者選抜方法と重点評価項目

選抜区分	選抜方法	目的と概要	重点評価項目		
			学力	行動力	意欲
一般入試 (前期)	センター試験	高等学校修了レベルの学習の達成度を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。	◎		
	個別学力検査				
一般入試 (後期)	センター試験	高等学校修了レベルの学習の達成度を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。	◎		
	個別学力検査				
AO入試・I	講義の実施とその内容に関するレポート	本学部の教育カリキュラムに基づく専門科目の学習を主体的に進めていくための資質・能力、適性、意欲・関心等を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。	◎	◎	◎
	個人面接（基礎学力に関する試問を含む）				
	出願書類（自己推薦書・調査書）				
編入学入試 (第3年次)	個人面接（口頭試問を含む）	本学部の教育カリキュラムに基づく専門科目の学習を主体的に進めていくための資質・能力、適性、意欲・関心等を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。	◎	◎	◎
	志望理由書				
	調査書又は成績証明書				

注) 配点により評価する項目のうち、◎大きい比重、○小さい比重

【別表2】入学者選抜方法の内容と評価要素

選抜方法	選抜区分	選抜内容と評価要素
個人面接	AO・I	基礎学力に関する試問、または口頭試問において、学部のカリキュラムに基づく学習を進めるのに必要な「学力」を評価します。また、志望動機、入学後の履修計画、卒業後の見通しなどに関する総合的な質疑により、「意欲」および「行動力」を評価します。
	編入学	
講義の実施とその内容に関するレポート	AO・I	学部において実施する講義に、能動的に対応するために必要な「学力」および「行動力」を評価します。
出願書類(自己推薦書・調査書)	AO・I	自己アピールの内容、および志望理由と理工学部のアドミッション・ポリシーとの整合性から、主として「意欲」に関する評価を行います。また、これまでの学習や課外活動に対する取組状況から主として「行動力」に関する評価を行います。
志望理由書	編入学	志望理由と理工学部のアドミッション・ポリシーとの整合性から、「意欲」に関する評価を行います。
推薦書	編入学	これまでの学習に対する取組や学習意欲に関する客観評価から、「意欲」および「行動力」の評価を行います。
調査書又は成績証明書	編入学	これまでの学習に対する取組状況から、「行動力」の評価を行います。また、3年次以降の履修に対応する能力についても評価します。

<p>学部等名 農学生命科学部</p> <p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.hirosaki-u.ac.jp/reiki/act/frame/frame110000261.htm）</p> <p>（概要） 農学生命科学部の教育研究上の目的は次の各号に掲げるとおりとする。 （１）農学と生命科学分野の基礎的・専門的な知識を身につけた人材の育成 （２）課題探求・問題解決能力を備えた専門技術者・研究者として活躍できる人材の育成 （３）豊かな人間性を身につけ、創造性と主体性をもって地域はもとより国際的にも活躍できる人材の育成</p> <p>○各学科の教育研究上の目的は次の各号に掲げるとおりとする。 （１）生物学科 遺伝・発生・生理・代謝・環境応答など根本的な生命現象に関する理解と、生物の多様性、適応戦略、進化のメカニズムや生態学、環境科学に関する知識及び世界自然遺産白神山や北日本沿岸水域の豊かな自然に関わるフィールド教育によって、生物学の基礎から専門分野への展開を可能とし、生物の基礎的現象の解明と生物科学の発展に寄与できる人材並びに生物生態の動的・複合的理解、山・川・海をつなぐ自然環境の保全及び水産資源の増殖に資する実地的・応用的視野を持つ人材を育成する。</p> （２）分子生命科学科 バイオテクノロジーの最先端技術に加えて物理化学や情報科学等の周辺境界領域の学問分野を取り入れ、未知の生命現象を含む様々な生命現象を細胞レベル、分子レベル、物質レベルで解明することができ、生命現象の解明を通して生物の持つ潜在能力を応用に活かすことができる人材並びに生化学・分子生物学を中心に微生物や酵素関連の教育及び遺伝子工学・糖鎖工学などのバイオテクノロジーの最先端を教育し、バイオマス等の次世代の有効資源利用・資源開発に貢献する人材を育成する。 （３）食料資源学科 バイオテクノロジーによる食料資源の開発や改良、環境に調和した食料資源の生産に関わる技術の開発及び食品の機能性評価や食の安全性に関わる技術の開発において社会で活躍できる幅広い知識と専門技術を身につけた人材を育成する。 （４）国際園芸農学科 国際化が進む世界の中で地域の農業と暮らしのよりよい未来を目指して、果樹学から作物学・蔬菜学・花卉学・畜産学及び生産機械学までの農業生産領域と食と農業をめぐる社会的経済的課題を総合的・実学的に把握して行動できる人材及び農業生産の効率化のための農業経営や国内外の農畜産物の流通機構の改善に関する実地的・応用的な素養と能力を有する人材を育成する。 （５）地域環境工学科 農業土木や計画から生態系や社会制度まで多方面の分野に関わる知識・技術を習得することにより、農村・山間地の環境整備・保全に関わる総合的な知識を有する人材並びに水・土・農業土木関連施設についての専門的知識及びそれらのシステムや計画に関する知識の習得を通じて、技術者の社会的責任を認識し、地域の発展に貢献できる農業土木技術者を育成する。
--

<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/about/cpdp/）</p>
<p>（概要） 農学生命科学部は、国際化の中で刻一刻と変化する農業・食産業分野、生命科学分野における技術革新に対応し活躍できる能力、および高い生命倫理、職業倫理を併せ持つ専門技術者として以下の三つの力を身につけたものに対して学士（農学生命科学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農学および生命科学の各分野の専門性を身につけ、原理や理論、実践に基づいて自然や社会を見通す力 ・学修した知識を具体的に活用し、専門技術者として地域社会や国際社会における問題を解決する力 ・創造性と主体性をもって生涯にわたって自らを成長させ学び続ける力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/about/cpdp/）</p>
<p>（概要） 農学生命科学部は、農学および生命科学教育を通して課題探求・問題解決能力を備えた専門技術者・研究者の養成を目指すための科目を編成します。</p> <p>1) 教養教育について 専門分野における能力を活かすために必要な知識や、社会で活躍するために必要な教養知識の習得を導きます。</p> <p>2) 専門教育について 農学教育及び生命科学教育は、学部教育の根幹になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通す力：農学および生命科学の各分野の学修を通して、自然や社会を見通す力を養います。 ・解決する力：専門教育での学修を基にして、地域社会や国際社会において必要な課題探求・問題解決能力を育む場を提供します。加えて専門教育を通して生命倫理、職業倫理も実践的に培います。 ・学び続ける力（学習習慣の持続）：専門教育を通して勉学の楽しさと知識が人生を豊かにすることを伝え、生涯学習の考え方を伝えます。 <p>3) 各学科について</p> <p>【生物学科】 生命科学教育を通して、農学を含めた課題の探求・問題解決能力を備えた専門技術者・研究者や、理科教育・環境行政・農林水産業の発展を担う人材を養成するための科目を編成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教養教育：生物学分野における能力を活かすための基盤となる知識や、社会で活躍するために必要な幅広い教養を身につけます。 ・専門教育： <ul style="list-style-type: none"> ・見通す力：生物学の各分野の学修を通して、自然や社会を見通す力を養います。 ・解決する力：基礎生物学、生態学、環境科学などの学修と、自然に関わるフィールド教育を基にして、国内外で活躍するために必要な課題探求・問題解決能力を育む場を提供します。 ・学び続ける力（学習習慣の持続）：生物学分野の専門教育により、論理的思考を確立し、生涯を通じた探求学習の考え方を身につけます。 <p>【分子生命科学科】 バイオテクノロジーの最先端技術に物理化学や情報科学などの周辺・境界領域を取り入れた教育を通して、生物の潜在能力を応用に活かす能力を養い、バイオマス等の次世代の有用資源を開発・利用できる専門技術者・研究者の養成を目指すための科目を編成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教養教育：専門分野における能力を活かすために必要な知識や、社会で活躍するために必要な教養知識の習得を導きます。

- ・専門教育：生物学・分子生物学・生化学および化学に関する教育と実験実習教育は、学科教育の根幹になります。
- ・見通す力：生物学・分子生物学・生化学および化学に関する各分野の学修を通して、生命現象全般を見通す力を養います。
- ・解決する力：専門教育での学修を基にして、ライフサイエンスにおいて必要な課題探求・問題解決能力を育む場を提供します。加えて「卒業研究」では具体的な研究課題に取り組み、専門知識と技術を駆使して問題を解決する力を実践的に培います。
- ・学び続ける力（学習習慣の持続）：専門教育を通して得た知識や技術が人生を豊かにすることを伝え、生涯学習の考え方を伝えます。

【食料資源学科】

教養教育ならびに専門教育を通して課題発見・課題解決・持続的な学びの能力を備えた、バイオテクノロジーによる食料資源の開発や改良，食料資源の生産に関わる技術や環境的課題解決，あるいは食品製造・開発に関わる専門技術者・研究者等の人材の育成を目指すための科目を編成します。

- ・教養教育：専門分野における能力を活かすために必要な知識や、社会で活躍するために必要な教養知識の習得を導きます。
- ・専門教育：食料バイオテクノロジー，食料生産環境および食品科学に関わる教育が、学科教育の根幹になります。
- ・見通す力：専門教育での学修を通して、自然や社会を見通す力を養います。
- ・解決する力：専門教育での学修を基にして、地域社会や国際社会において必要な課題探求・問題解決能力を育む場を提供します。加えて専門教育を通して生命倫理，職業倫理も実践的に培います。
- ・学び続ける力（学習習慣の持続）：専門教育を通して得た知識や技術が人生を豊かにすることを伝え、生涯学習の考え方を伝えます。

【国際園芸農学科】

国際化が進む世界の中で地域の農業と暮らしのよりよい未来を目指して、果樹学から作物学・蔬菜学・花卉学・畜産学及び生産機械学までの農業生産領域と食と農業をめぐる社会的経済的課題を総合的・実学的に把握して行動できる人材並びに農業生産の効率化のための農業経営や国内外の農畜産物の流通機構の改善に関する実際の・応用的な素養と能力を有する人材の育成を目指すための科目を編成します。

- ・教養教育：専門分野における能力を活かすために必要な知識や、社会で活躍するために必要な教養知識の習得を導きます。
- ・専門教育：農業の生産領域および食と農業の経済領域に関わる教育は、学科教育の根幹になります。
- ・見通す力：農業の生産領域および食と農業の経済領域に関わる各分野の学修を通して、農業や食に関する見通す力を養います。
- ・解決する力：専門教育での学修を基にして、農業の生産領域および食と農業の経済領域に関わって地域社会や国際社会において必要な課題探求・問題解決能力を育む場を提供します。
- ・学び続ける力（学習習慣の持続）：専門教育を通して勉学の楽しさと知識が人生を豊かにすることを伝え、生涯学習の考え方を伝えます。

【地域環境工学科】

地域環境工学教育を通して、創造性と深い洞察力を兼ね備え、自主的な問題解決能力，論理的な思考能力を身につけた”科学的なものの見方”のできる技術者の育成を図るための科目を編成します。

- ・教養教育：専門技術者の基礎となる力を養います。
- ・見通す力：地球規模の視点から多面的に問題を把握し解決するために必要な知識を養います。
- ・解決する力：多様性のあるチームで作業を進める基礎的な力やコミュニケーションに関する基礎的な力を養います。
- ・専門教育：専門技術者の根幹となる力を養います。

- ・見通す力：専門工学知識の基礎、水・土・構造に関する工学知識、システム・計画技術、地域に貢献できる能力について見通す力を養います。
- ・解決する力：専門技術者としてのコミュニケーション能力やグループワーク能力、総合的な課題に対し解決プロセスを構築し解決策を構築するデザイン能力を培います。加えて専門技術者として求められる倫理観を培います。
- ・学び続ける力（学習習慣の持続）：専門技術者として継続的に自己研鑽に努める力を培います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/examination/admission-policy/>)

（概要）

1) 農学生命科学部が求める学生像

農学生命科学部では、農学と生命科学分野の基礎的・専門的な知識を身につけ、課題探求・問題解決能力を備えた専門技術者・研究者として活躍でき、創造性と主体性をもって地域はもとより国際的にも活躍できる人材を育成することを目的としています。この目的のため、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）と「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を十分に理解し、以下に掲げる学力・行動力・意欲を有する学生を求めます。

- ・入学後に修める教養教育や、農学および生命科学の各分野の専門教育に必要な基礎学力（高等学校の教科全般、特に理科、英語、数学）
- ・農学および生命科学を通して国際社会や地域社会に参画しようとする行動力
- ・農学と生命科学に興味を持ち、これらの基礎的・専門的な知識を継続的に学びたいとする意欲

また、農学生命科学部の各学科は、それぞれ次のような学生を求めます。

【生物学科】

- ・生物学の遺伝子レベルから生態系レベルにわたる様々な基礎的知識や応用的知識を、実社会への参画をみすえ、積極的に身につけようとする行動力を持つ人
- ・生物学に強い興味を持ち、動植物の生命現象の解析を通じて、生物の基礎的現象のしくみや生物が持つ多様性、適応戦略、進化のメカニズムの解明に意欲のある人

【分子生命科学科】

- ・分子レベルでの生命現象の理解や知識を活用した産業（例えば、医薬品、食品、化学工業など）および学問分野で活躍しようとする行動力を持つ人
- ・生命現象のしくみや機能に興味を持ち、高校で学習した生物や化学の知識を基に分子レベルでこれを理解し、さらに追求する意欲のある人

【食料資源学科】

- ・バイオテクノロジー、食品科学、作物生産環境について目的意識を持って学ぶことができ、これらの研究を積極的に行うことができる行動力を持つ人
- ・学びの中から様々な課題を自ら見出し、解決する力を養い、学修後にそれを食料生産や食品産業に役立てようとする意欲のある人

【国際園芸農学科】

- ・地域農業の活性化や国際的な展開に取り組む行動力を持つ人
- ・農業生産の技術とその原理を学ぶことに意欲のある人
- ・食と農の経済を学ぶことに意欲のある人

【地域環境工学科】

- ・自立した農業土木技術者として、社会的責任を自覚し、自主的継続的に学修し、多様な人々と協働し、国内外の地域社会に参画していこうとする行動力を持つ人
- ・数学や物理学などの自然科学に関する工学基礎知識を身に付け、水・土・農業土木関連施設や農村・山間地に関わる総合的な工学知識を習得した農業土木技術者を目指し、国内外の地域社会の問題解決や発展に貢献しようとする意欲のある人

2) 入学志願者に求める学習の取組

- ・農学および生命科学の各分野の教育を受けるために必要な基礎学力だけではなく、論理的思考力、読解力、記述能力などの修得が必要です。
- ・自分自身の考えを持ち、さまざまな課題に立ち向かい、解決する行動力を身につけておくことが必要です。
- ・実験室のみならずフィールドでの学習・研究活動を自主的かつ積極的に取り組む意欲が必要です。

3) 入学者選抜の基本方針

農学生命科学部では学力・行動力・意欲を有する学生を選抜するために、多面的・総合的な評価方法により別表のとおり入学者を選考します。

※平成32年度入学者向け／平成31年度公表

【別表1】入学者選抜方法と重点評価項目

選抜区分	選抜方法	目的と概要	重点評価項目		
			学力	行動力	意欲
一般入試 (前期)	センター試験	高等学校修了レベルの学習の達成度を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。	◎		
	個別学力検査				
一般入試 (後期)	センター試験	高等学校修了レベルの学習の達成度を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。	◎		
	個別学力検査				
AO入試・I	自己PR書	アドミッション・ポリシーを正しく理解したうえで、本学部の教育カリキュラムに基づく学習を主体的に進めていくための資質・能力、適性、意欲・関心などを評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。	○	◎	◎
	調査書				
	小論文				
	個人面接				
AO入試・II	センター試験	アドミッション・ポリシーを正しく理解したうえで、本学部の教育カリキュラムに基づく学習を主体的に進めていくための資質・能力、適性、意欲・関心などを評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。また、基礎学力をより適正に判断するため、センター試験の成績を選抜に用います。	○	◎	◎
	自己PR書				
	調査書				
	個人面接				
編入学入試 (第3年次)	小論文	本学部で専門教育を受けるために必要な「学力」、「行動力」、「意欲」を評価するという観点から、左記の方法により総合評価して選抜します。	◎	○	○
	個人面接				
	編入学願				
	成績証明書				

注) 配点により評価する項目のうち、◎大きい比重、○小さい比重

注) 一般入試では、調査書の評価を5段階評価とし、総合判定の資料とする。

【別表2】入学者選抜方法の内容と評価要素

選抜方法	選抜区分	選抜内容と評価要素
小論文	AO・I	農学や生命科学などに関連する、いくつかのテーマについて論述させる。論理的思考力、読解力、記述能力などを有しているかどうかを精査することにより、「学力」を評価する。
	編入学	
個人面接	AO・I	志望理由、興味・関心がある研究分野などについて、質疑応答を行うことにより、「行動力」、「意欲」を評価する。また、面接の過程で、口頭試問を行うことにより、「学力」を評価する。編入学入試では「学力」を重視するため、より専門的な内容の口頭試問を行うことがある。
	AO・II	
	編入学	

自己PR書	AO・I	自己PR、志望理由、将来への展望などについて、これまでの勉学や様々な活動を通して得た経験を基に記入する。本学部に対する理解や、専門分野に対する強い興味・関心、主体的に学び続けようとする積極性などにより、「行動力」、「意欲」を評価する。
	AO・II	
調査書	AO・I	高等学校での科目の履修状況、教科外活動の状況、ボランティア活動・プロジェクト活動など校外での活動、各種の資格・免許取得などにより、「行動力」、「意欲」を評価する。
	AO・II	
編入学願	編入学	本学部に対する理解や、専門分野に対する強い興味・関心、主体的に学び続けようとする積極性などにより、「行動力」、「意欲」を評価する。
成績証明書	編入学	教養科目、専門科目の成績を精査することにより、各学科での教育研究内容に関する「学力」を評価する。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.hirosaki-u.ac.jp/information/published/educationalinfo/kyoikukohyo172-2.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	8人	—					8人
人文社会科学部	—	28人	30人	11人	0人	0人	69人
教育学部	—	30人	24人	20人	1人	0人	75人
医学部	—	70人	44人	41人	100人	25人	280人
医学部医学科	—	42人	29人	23人	76人	20人	190人
医学部保健学科	—	28人	15人	18人	24人	5人	90人
理工学部	—	42人	40人	3人	14人	1人	100人
農学生命科学部	—	29人	38人	0人	14人	0人	81人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
0人		312人				312人	
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： http://hue2.jm.hirosaki-u.ac.jp/search?m=home&l=ja					
c. FD（ファカルティ・デベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学教員のFDに関する意識向上、教育の改善を促すことを企図して、FDワークショップ、シンポジウムを開催している。</p> <p>また、FD活動状況をホームページで公開している。</p> <p>http://www.hirosaki-u.ac.jp/policy/img/2019/04/fd_h30.pdf</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人文社会科学部	265人	287人	108.3%	1,060人	1,162人	109.6%	-	-
教育学部	170人	179人	105.3%	680人	725人	106.6%	-	-
医学部	312人	316人	101.3%	1,632人	1,623人	99.4%	50人	26人
医学部医学科	112人	112人	100.0%	772人	793人	102.7%	20人	20人
医学部保健学科	200人	204人	102.0%	860人	830人	96.5%	30人	6人
理工学部	360人	362人	100.6%	1,460人	1,487人	101.8%	10人	1人
農学生命科学部	215人	227人	105.6%	860人	901人	104.8%	若干名	5人
合計	1,322人	1,371人	103.7%	5,692人	5,898人	103.6%	60人	32人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人文学部	341人 (100%)	9人 (2.6%)	301人 (88.3%)	31人 (9.1%)
教育学部	238人 (100%)	25人 (10.5%)	192人 (80.7%)	21人 (8.8%)
医学部	315人 (100%)	18人 (5.7%)	172人 (54.6%)	125人 (39.7%)
医学部医学科	118人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	118人 (100%)
医学部保健学科	197人 (100%)	18人 (9.1%)	172人 (87.3%)	7人 (3.6%)
理工学部	290人 (100%)	116人 (40.0%)	153人 (52.8%)	21人 (7.2%)
農学生命科学部	183人 (100%)	50人 (27.3%)	121人 (66.1%)	12人 (6.6%)
合計	1,367人 (100%)	218人 (15.9%)	939人 (68.7%)	210人 (15.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
【主な進学先】弘前大学大学院, 北海道大学大学院, 小樽商科大学大学院, 東北大学大学院, 宇都宮大学大学院, 筑波大学大学院, 慶應義塾大学大学院, 金沢大学大学院, 静岡大学大学院 等				
【主な就職先】国家公務員, 地方公務員, 学校教員, 医療施設(病院等), 大林組, 日立化成, アルピオン, マイナビ, みずほ証券, タマホーム, でん六, イプサ, 東日本電信電話, 大和証券, 日本製紙, 三菱自動車工業, モンテール, 花王, JTB, 住友生命保険相互会社, 日本年金機構, 山崎製パン, 美和ロック, 全国農業協同組合連合会, 東京商工リサーチ, 日本通運, 星野リゾート, アイリスオーヤマ, カチタス, HOYA, 日本航空, 日本銀行, JR各社, 地方銀行 等				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
人文学部	359人 (100%)	314人 (87.5%)	33人 (9.2%)	10人 (2.8%)	2人 (0.5%)
教育学部	245人 (100%)	219人 (89.4%)	19人 (7.8%)	5人 (2.0%)	2人 (0.8%)
医学部	310人 (100%)	278人 (89.7%)	24人 (7.7%)	7人 (2.3%)	1人 (0.3%)
医学部医学科	108人 (100%)	91人 (84.3%)	16人 (14.8%)	1人 (0.9%)	0人 (0%)
医学部保健学科	202人 (100%)	187人 (92.6%)	8人 (3.9%)	6人 (3.0%)	1人 (0.5%)
理工学部	303人 (100%)	272人 (89.8%)	13人 (4.3%)	17人 (5.6%)	1人 (0.3%)
農学生命科学部	187人 (100%)	169人 (90.4%)	8人 (4.3%)	6人 (3.2%)	4人 (2.1%)
合計	1,404人 (100%)	1,252人 (89.2%)	97人 (6.9%)	45人 (3.2%)	10人 (0.7%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業計画(シラバス)及び学年歴をホームページで公表している。 https://www.hirosaki-u.ac.jp/support/syllabus.html https://www.hirosaki-u.ac.jp/support/calendar.html</p> <p>各学部等において授業履修の手引き(刊行物)を作成し配付している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
三つの方針（ポリシー）				
https://www.hirosaki-u.ac.jp/policy/policy.html				
弘前大学 GPA に関する要項				
https://www.hirosaki-u.ac.jp/reiki/act/frame/frame110001305.htm				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人文社会科学部	文化創生課程 文化資源学コース	124 単位	有	「弘前大学における 授業科目の履修登録 単位数の上限に関す る規程」により次の とおり定められてい る。 履修登録できる単 位の上限は、全ての 学部（医学部は1年 次のみ）で教養教育 科目と専門教育科目 を併せて、年間で48 単位となっている。 ただし、集中講義 （夏季休業及び学年 末休業期間中に開講 されるもの）、実 験、実習及び実技は 含まない。 なお、履修取りや め期間に履修の取り やめを行わなかった 科目はすべて履修登 録できる単位の上限 に含まれる。 ただし、各学部の 長が特に必要と認め る学生にあっては、 履修登録単位数の上 限を別に定める単位 数とすることができる。
	文化創生課程 多文化共生コース	124 単位		
	社会経営課程 経済法律コース	124 単位		
	社会経営課程 企業戦略コース	124 単位		
	社会経営課程 地域行動コース	124 単位		
	教育学部	学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻小学 校コース		
学校教育教員養成課程 初等中等教育専攻中学 校コース		130 単位		
学校教育教員養成課程 特別支援教育専攻小学 校コース		142 単位		
学校教育教員養成課程 特別支援教育専攻中学 校コース		140 単位		
養護教諭養成課程		130 単位		
医学部	医学科	225 単位		
	保健学科 看護学専攻	125 単位		
	保健学科 放射線技術科学専攻	129 単位		
	保健学科 検査技術科学専攻	128 単位		
	保健学科 理学療法学専攻	125 単位		
	保健学科 作業療法学専攻	131 単位		
	理工学部	数物科学科 数理科学コース		
数物科学科 物質宇宙物理学コース		134 単位		
数物科学科 応用計算科学コース		134 単位		
物質創成化学科		134 単位		
地球環境防災学科		134 単位		
電子情報工学科		134 単位		
機械科学科 知能システムコース		134 単位		
機械科学科 医用システムコース		134 単位		
自然エネルギー学科		134 単位		

農学生命科学部	生物学科 基礎生物学コース	124 単位		
	生物学科 生態環境コース	124 単位		
	分子生命科学科 生命科学コース	124 単位		
	分子生命科学科 応用生命コース	124 単位		
	食料資源学科 食料バイオテクノロジー コース	124 単位		
	食料資源学科 食品科学コース	124 単位		
	食料資源学科 食料生産環境コース	124 単位		
	国際園芸農学科 園芸農学コース	124 単位		
	国際園芸農学科 食農経済コース	124 単位		
	地域環境工学科 農山村環境コース	124 単位		
	地域環境工学科 農業土木コース	124 単位		
	GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法： http://www.hirosaki-u.ac.jp/policy/img/2012/07/GPA.pdf	
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法： https://www.hirosaki-u.ac.jp/policy/education/aldata.html		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.hirosaki-u.ac.jp/wp_access.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
全学		535,800 円	282,000 円	0 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>1. 学生の協力による学修相談・支援サービス 学内ワークスタディに登録している2年次以上の学部学生の中から所属学部等を考慮し、6名程度の学生（以下「ピアサポーター」という。）が、正課外で学内の待機場所で学生の学修相談に応じるもので、その相談内容は、次のとおりである。</p> <p>①学修の方法について 自学自習のポイント、レポートの書き方、文献検索の方法、試験勉強の仕方等</p> <p>②履修登録について 卒業や卒業後の職業を意識し、必要な履修科目や推奨する履修科目のアドバイス、経験談等</p> <p>③学習内容について 授業で分からなかった簡単な内容の質問</p> <p>④上記①～③以外について 質問のポイントがはっきりしないが、何らかの学修に関わる相談 また、AO入試I合格者に対して、入学までの期間の質問等にメール等で応じる。</p> <p>2. 補習教育（リメディアル教育） 大学での履修に必要な知識を修得させる機会を提供し、補習教育を行うことにより、学生の基礎学力及び学修意欲の向上を図り、大学での学びの促進に寄与することを目的とする。補習教育科目は、大学において学修する上で必要となる基礎的な知識を修得することを目的としたもので、本学の教育課程外で開講する①数学、②教育推進機構アドミッションセンター長が必要と認めた科目とする。補習教育科目の受講対象者は、原則として本学の学部1年次に在籍する学生のうち、受講を希望する者とする。</p> <p>3. 学生担任制度 各学部では、学習及び生活全体の指導を行うため、クラス編成し各クラスに担任をおいている。この制度では担任教員と学生相互の人的交流の場としてクラスアワー等の時間を設けている。</p> <p>4. オフィスアワー すべての教員がオフィスアワーを設け、教員が各自の研究室において履修相談や進路相談などについて学生と一緒に考えるための時間です。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>1. キャリアセンター キャリアセンターは、キャリア教育及び就職支援を通して本学学生の進路決定や生涯を通じた持続的な就業力の育成をより円滑に推進することを目的とし、インターンシップ、就職ガイダンス、業界研究会、各種企業説明会、就職相談、求人開拓及び情報収集等、さまざまなキャリア支援を行っている。</p> <p>【1】キャリア教育—自らの生き方を見つけ、実現する力を育成する— キャリア教育の取り組みを、社会全体の中での人生の在り方を見つけ、実現するための「生き方教育」と位置付けている。地域の活性化を支える高い教養と幅広い知識を有する社会人として、社会に羽ばたくためのキャリア形成を促す。</p> <p>【2】進路・就職相談 専任のキャリアアドバイザーが、年間を通して1,400件の相談に対応している。1年生から利用することができ、就職活動に向けて何をすればよいのか、という初歩的な相談から、インターンシップ参加のための準備、採用試験に向けた面接練習やエントリーシート添削等、様々な相談に対応している。</p> <p>【3】ガイダンス 民間企業・公務員・教職といった志望分野別に年間約70回のガイダンスを開催している。就職活動のための一般的なガイダンスから、自己分析、志望する分野や企業の絞込み、履歴書やエントリーシートの書き方、面接対策等、事前準備のきめ細やかな支援を行</p>

っている。

【4】各種説明会

学内で開催する業界研究会や企業説明会の他、3月には「弘前大学の学生を是非採用したい!」という企業約200社を全国から招いて合同企業説明会を開催し、学生がさまざまな企業を知る機会となっている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

1. 「学生総合相談室」相談員（各学部教員2名＋学務部職員4名）
各種相談と相談内容により適任者・関係機関を紹介する。
2. 保健管理センター
身体のことや健康問題について、医師や看護師が相談に応じる。また、学業・進路・人間関係など学生生活上の悩みについては、カウンセラーが相談に応じる。
3. 学務部学生課「なんでも相談」窓口
学生生活全般について、電話・メールでの相談を含めて「なんでも」相談に応じる。相談内容により、適任者・関係機関を紹介する。
4. 「学生特別支援室」
特任教員（コーディネーター）が学生本人、授業担当教員、保護者等と面談し、障害等に伴う修学・学生生活上の困難について確認したうえで、その解決方法等について話し合いながら、より良い学生生活を送ることができるよう支援する。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.hirosaki-u.ac.jp/policyinfo.html>